8月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和7年8月4日（月）10時00分～11時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑤ NHK 南相馬通信室（南相馬記者クラブ会員）

計 5 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長
- ・鹿島区役所長・復興企画部長
- ・復興企画部政策担当理事・市民生活部長
- ・健康福祉部長・こども未来部長
- ・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
- ・農林水産部政策担当理事・建設部長
- ・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

- (司会進行) 秘書課長
- (会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、少年の主張についてです。

中学生が、将来の夢や社会への提言などを発表する「少年の主張 南相馬市大会」を7月15日にサンライフ南相馬で開催しました。市内の中学生12名が自分たちの思いを力強く発表しました。

最優秀賞に選ばれた、原町第一中学校の西 つかささん、原町第二中学校の星山 琉菜さんと佐伯 瑠杏さん、小高中学校の井島 彩絵さんの計4名は、9月25日の県大会の出場候補として推薦されます。

次に、北泉海水浴場についてです。

7月19日、北泉海水浴場で海開きが行われました。海水浴場の設置は、8月24日までとなっており、7月29日現在までに、7,664人にご利用いただいています。

なお、北泉海浜総合公園内の臨時キャンプ場は、海水浴場の開設期間中は毎日宿泊でき、海水浴場の終了後は10月31日まで、金土日・祝日にご利用可能です。連日、暑い日が続きます。ぜひ北泉海水浴場をご利用いただきたいと思います。

次に、海外との交流についてです。

姉妹都市であるアメリカ合衆国ペンドルトン市の学生5人が7月16日から29日まで本市を訪問し、見学などを行いました。

8月6日からは本市の高校生6人が派遣団としてペンドルトン市を訪問します。現地の学生と交流を深めるなどして、8月20日に帰国する予定です。

なお、本市派遣団の6人中5人はペンドルトンの派遣団を受け入れたホストファミリーのお子さんです。そのうち2人はホストファミリー同士の相互交流となっており、より一層、親睦を深められると期待しています。

また、市内の中学2年生11人がオーストラリアで海外研修を行うため、7月31日にオーストラリア・シドニーに向けて出発しました。今回の研修は、ホームステイを中心とした4泊7日の日程となっており、8月6日に帰国する予定です。

来たる3月には、同じく中学2年生を対象にシンガポールでの海外研修を行う予定です。

こちらは定員を25人としており、今後募集する予定です。

研修を通じて、海外の文化に触れ、様々な気付きにつながるきっかけとなることを期待しています。

次に、国際ドローン展についてです。

7月23日から25日まで東京ビッグサイトで、国内最大級の国際ドローン展が開催され、約3万2千人が来場したそうです。

初日の23日に、市内に本社を置く株式会社ハマ様と登壇し、私からは「ロボットハブ構想による南相馬市の経済復興への挑戦」というテーマでドローン分野を起点とした新産業基盤の構築について講演してまいりました。

講演では、南相馬市の優位性として、国のイノベーション・コースト構想などに基づき、ロボット・ドローン産業に早い時期から取り組んできたこと、福島ロボットテストフィールドという開発実証拠点が市内に所在していることに加え、全国でも屈指の補助金や市をあげてのロボット産業推進の体制など、ロボット開発・実証がしやすい自治体であることを強くPRしてまいりました。

次に、要望書の提出についてです。

7月24日に総務省、7月25日に復興庁と経済産業省を鈴木議長とともに訪れ、要望書を手交しました。

特に、避難指示区域における原子力災害からの復興は道半ばです。市を取り巻く状況を踏まえて、令和8年度以降の第3期復興・創生期間における復興の体制及び財源の確保、新たに生じた課題に対する支援などを要望いたしました。

今後も復興に向けた各種課題の解消に向け、国や関係機関へ積極的に市の意向を伝えてまいります。

続いて今後の主な話題について申し上げます。

はじめに、福島スペースカンファレンスについてです。

8月8日、一般社団法人宇宙産業連携機構と市は、昨年につき浮舟文化会館をメイン会場に、小高パイオニアヴィレッジ、柳美里さんが経営しているフルハウスに併設されているレインシアターの3会場で、東北最大級の「福島スペースカンファレンス2025」を開催いたします。

宇宙産業に関連するテーマに基づくトークセッションや、参加者同士の交流会を通じて、南相馬から宇宙産業全体を盛り上げることを目指します。

詳しくは後ほど担当から説明いたします。

次に、大相撲南相馬場所における南相馬市産きゅうりの贈呈式についてです。

8月8日にまるさん・あつまるアリーナで開催される令和7年夏巡業 大相撲南相馬場所において、日本相撲協会の皆様へ南相馬市産きゅうり1,000本を贈呈します。また、会場北側の市民プール入り口前では、力士の皆さんにきゅうりの振る舞いも実施します。なお、贈呈するきゅうりの準備にはJAふくしま未来様にご協力いただきました。

体を冷やす作用があるきゅうりを力士の皆さんに食べていただき、猛暑を乗り切るとともに、ますます活躍していただきたいと思います。

最後に、夏のイベントについてです。

市内では、今年も夏のイベントが開催されます。

8月9日は、原町区で、原町商工会議所青年部主催による「北泉サマーフェスティバル2025 THE BEACH」、8月10日は、鹿島区で、実行委員会主催による「かしまのなつまつり」、8月16日に、小高区で小高商工会主催による「おだか夏まつり」がそれぞれ開催されます。

ぜひ夏の思い出として、ご家庭でご来場いただきたいと思います。

市政報告は以上となります。

【福島スペースカンファレンス2025の説明】

カンファレンスについて説明する前段に、本市の宇宙関連産業推進に大きく関連する2つの政府文書についてご説明します。

1つ目が『第3期復興・創生期間』における基本方針です。こちらには2030年頃までの自律的、持続的産業発展のため、航空空中を含むイノベ重点分野において「実証の聖地」を目指すことが位置づけられています。また、衛星・宇宙関連の産業化を見据えた環境整備につながるものを含め、実用化開発や実証の誘致等を通じ、スタートアップ企業等と呼び込むことが盛り込まれています。

2つ目は「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」です。こちらは浜通り地域等の自立的・持続的な産業発展の実現に向けた産業発展

のビジョンです。第2期復興・創生期間後の次の5年間に向けた課題認識や地域の実情を踏まえて、復興庁や経済産業省、福島県により改定されました。その中で、本市の宇宙の取り組みが新たに位置づけられています。

具体的には中長期的に目指していく姿として、航空分野において、浜通り地域には宇宙スタートアップが集積しつつあり、福島を含む地域企業によるロケットや衛星といった宇宙産業への貢献と、それを通じた地域経済の発展が好循環となるよう目指すことが記載されています。また、具体的な取り組みとして、宇宙スタートアップの挑戦の場としての立ち位置を確立していくことが盛り込まれています。

このように、浜通り地域の産業発展に向け、宇宙産業も一つの柱として貢献していくことが記載されています。

このような中、福島スペースカンファレンス2025が開催されます。

本カンファレンスは東北最大級、12本のセッションから構成されています。中央省庁、県、民間企業、大学研究機関、周辺自治体、学生などの皆さんにご参加いただく予定です。

本カンファレンスの特徴的なところは、宇宙産業の課題と課題をテーマとしたものに加えて、自治体目線のテーマ、地域住民目線のテーマ、そしてスタートアップの大きな集積地として東京と福島がどのように連携すればよいかといったテーマがある点です。ご参考として、注目セッションを4つ記載しましたのでご参考にしていただければと思います。

本カンファレンスにご参加いただくことで、宇宙産業を巡る情勢や、浜通り地域の宇宙関連産業の可能性を感じることができると考えます。ぜひ足を運んでいただければと思います。

【質疑応答】

質問1：

復興庁への要望活動についてお尋ねします。先ほど令和8年度以降の復興に向け、新たに生じた課題についても要望されたとおっしゃっていましたが、具体的にどのような内容でしょうか。

回答1：市長

来年度の予算編成に向けて動き出す時期ですので、総括的な要望を行いました。

要望では、第2期復興・創生期間が終了するが、第3期も引き続き対応をお願いしたいと申し上げました。また、復興が進んで一つのことを解決すると、これまでにない新たな課題が必ず出てきますし、地域によって課題に差がありますので、そのようなものにも丁寧な対応をお願いしたいと申し上げました。

質問2：

先日、北海道に出張されたと思うのですが、出張の目的と、現地でどのようなことをされてきたか教えていただけますか。

回答2：市長

7月27日・28日に北海道の名寄に出張してまいりました。

震災以前から杉並区と交流があり、震災を機に、杉並区が交流する9市町村の皆様から多大なご支援をいただきました。その関係から、毎年「自治体スクラム会

議」が開催され、その年の振り返りや次年度に向けた目標を毎年協議することとしています。

これまでは災害復旧、特に本市の復興をほかの自治体でどのように助けるかを中心に議論いただいてきましたが、おかげ様で南相馬の復興も進んできています。

震災による直接的な支援をお願いする状況ではないという認識を共有した上で、今後の災害に向けて、また地方創生の中で交流をどのように進めるか、ということを中心に話し合いました。

質問 3 :

7月30日にロシア・カムチャツカ半島沖で地震があり、日本では津波注意報から津波警報に切り替わりました。今回の津波警報を巡る一連の対応について、どのように振り返られますか。

回答 3 : 市長

基本的な対応は計画通りにできたと思っています。具体的な被害の報告も受けておりません。海水浴場の開設時期でもありましたが、パトロールや道路の封鎖を含めて想定通りにできました。

先ほど、復興のステージごとに新しい課題も見えてくるというお話をしましたが、今回の避難所における暑さ対策も同じことがいえます。

避難所を設けてまもなく「暑さ対策を考えてほしい」と要望がありましたので、避難所付近で涼しい場所として、まず学校の体育館から校舎の中へ移動したり、エアコンが効く体育館を活用したり、近くの生涯学習センターに誘導して対応させていただきました。初めからエアコンのある場所に避難すれば良かったのではないかという意見もあるかと思いますが、体育館のエアコンの工事がこれから始まるころですし、同じ場所に避難することも大切ですので、今ある施設の中でどのように運用していくか検討することが必要だと思います。

改めて、安心して避難でき、疲れない環境を整備していかなければならないと思った次第です。

質問 4 :

宮城県と新潟県で渇水被害が出ていますが、南相馬市で水不足になる可能性はありますか。

回答 4 : 市長

計画的に水を出したり、節水に常に務めたり、現場で丁寧に水のコントロールをしています。今年の夏のコメ作りにおいても、従来どおりの水を出せるかと思いません。とはいえ、暑い日が続くと水があつという間になくなりますから、現場と連絡を取りながら困らないようにしたいと思います。

質問 5 :

津波警報を受けて、全国では高台に向かう道で渋滞が起きた地域もあったようですが、南相馬市でそのようなケースはありましたか。

回答 5 : 市長

先行避難所を4カ所設ける中で、渋滞して困ったという話は聞いておりません。

本市の海岸沿いは防波堤が設置され、かつ危険区域を設定して住宅を制限していますので、ほかの地域と比べて混雑に至るような居住者の数が少ないと思います。

回答 5：復興企画部長

津波による避難で、車が渋滞したなどの報告は特に上がってきていません。

回答 5：建設部長

一時、通行止めとなった国道 6 号は一時的に混雑が確認されたということですが、山側に迂回して大きな混乱に至らなかったと確認しています。

質問 6：

県内で、いわき市や新地町に災害救助法が適用されました。南相馬市も同様に沿岸部に避難指示が出た一方、災害救助法適用の要望を見送った経緯をお聞かせください。

回答 6：市長

災害救助法は大きな被害が想定される場合に要請できると理解しており、申請するか検討しましたが、大きな被害が想定される状況ではないことなどを踏まえて、申請を見送ると判断しました。

回答 6：復興企画部長

市長が申し上げた通りです。特に大きな災害が想定されないため、今回の申請は見送りました。

以上